

この事變は吾が日本民族に一大覺醒を與へた、昭和十年には聯盟脱退の完了と海軍會議の開催に依り軍縮や南洋委任統治地問題等を提げて壓迫し來るは必然である英米共に一九三六年を機として日本に對する武力行使を考へ新艦建造ドック、軍港の戰備を急ぎつゝある、之が爲め日本は第二次計劃案を樹てゝある、この準備が成らなければ來るべき海軍會議に於て戦わずし屈服せねばならぬ、彼等は財閥をつゝき政黨を動かして戦わずして勝たんとして居る、嘗てアメリカが一千萬弗をばらまいて財閥、政黨を動かしてロンドン會議に調印せしめんとしたるところ僅かに三萬五千弗の費用ですんだそうである。イギリスは日本の聯盟脱退を信じなかつた、英米の強硬外交に對して吾が外交は腐敗墮落してゐた事を思わせる、然るに二年後に現る

べき委任統治地問題は實力で解決する外なかるべく、且亦軍備平等の主張は英米と衝突するやも知れず國民一致して邁進せねばならぬ。尙經濟方面より見ても太平洋沿岸に重要屬領を有する英國とアメリカの東洋進出計劃とは日本に對する壓迫となる、これを打開する處に日本の一大飛躍がある、國論喚起、國民驟起の秋である。

○切迫せる内政の革新 陸軍少將 二宮久二氏

思想混亂、政黨政治の弊害、特に從來の過れる經濟制策が今日の國難を招いたのである、茲に愛國の情禁ずること能はず昨春我が明倫會は生れたのだ。

現在の思想は我國建國の精神を忘れて居る、神勅を忘れ建國の美風何處にあるか、思まわしき思想は教育界迄も浸潤し國家の存立を危くした、當局は其根本を取締らねば駄目